

う ら ぼん え
盃蘭盆会

お きよう ぼん
御経本

令和三年度 日蓮宗 大乗山 正念寺

がじんきようによとう
我深敬汝等

（わたしはあなたを深く尊敬します）

ふかんきようまん

不敢輕慢

（決して軽んじたり侮ったりすることはありません）

しよいいしゃが

によとうかいぎようぼさつどう

所以者何

汝等皆行菩薩道

（その理由はというと、あなたはきつと菩薩の道を歩まれ）

とうとくさぶつ

當得作佛

（将来必ず仏になるべき御方なのですから）

かいきようげ

開經偈

(仏さまの教えに出会うことができることを感謝するための要文)

むじようじんじんみみよう

ほう

無上甚深微妙の法は、

ひやくせんまんごう

百千万劫にも

深く優れた神秘なる法華経

限りなく永遠に近い時間

あ

たてまつ

遭い奉ること難し、

がた

われいまけんもん

我今見聞し、受持

じゅじ

出会うことは難しい

信じ行う

することを得たり。

え

ねが

願わくは如来の

によらい

だいいちぎ

げ

第一義を解せん。

しごく

だいいじよう

至極の大乗、

教えを正しく理解できますよう

最上の教えである法華経の真理

しぎ
思議すべからず、

けんもんそくち
見聞触知

みなぼだい
皆菩提に

思考で得られるものではない

見て聞いて触れて知ること

悟りへの道

ちか

のうせん

ほうしん

しよせん

ほつしん

近づく。

能詮は報身、

所詮は法身、

この教えを説かれているのはお釈迦さま

説かれている教えはお釈迦の心

しきそう

もんじ

すなわ

こ

おうじん

色相の文字は、即ち是れ応身なり。

目に写る

むりよう

くどく

みな

きよう

あつ

お釈迦さまのお姿そのもの

無量の功德、皆この経に集まれり。

計り知れない

このゆえ

じぎい

みよう

くん

みつ

やく

是故に自在に冥に薰じ密に益す。

知らず知らずのうちに香りに染まるように功德が身につき密かに利益をもたらす

う ち む ち
有智無智

つ み め っ ぜ ん し ょ う
罪を滅し善を生ず。

智慧のあるなしに関わらず

も し ん
若しは信、

も ほ う
若しは謗

と も ぶ っ ど う じ ょ う
共に仏道を成ず。

教えを信じる人

またはそしる人も

さ ん ぜ

し ょ ぶ っ

じ ん じ ん

み ょ う で ん

三世の諸仏、

甚深の妙典なり。

現在・過去・未来

非常に深い境地を顕された勝れた教え

し ょ う じ ょ う せ せ

ち ぐ

ち ょ う だ い

生生世世、

値遇し頂戴せん。

何度生まれ変わっても

この教えに出会い

みようほうれんげきようだいばだつたほんだいじゆうに

妙法蓮華經提婆達多品第十二

(八歳の竜女による成仏を示したお経)

そときりゆうによーひとつー

ほうじゆー

爾の時にー龍女一のー宝樹あり、

高価な宝珠

けーじきさんぜんだいせんせーかい

も

価直三千大千世界なーり。持つてー

全宇宙に匹敵する価値のもの

もっほとけー

たてまつ

以てー仏にー上る。

ほとけすなわー

これ

仏即ちー之をー

献上しました

ただちに

う

受けたーもう。

りゆうによー

ちしゃくーぼさつー

龍女、智積菩薩、

そんじやーしやりほつ

尊者舍利弗にー謂いつてー言いわく、

わーれー

ほうじゆー

たてまつ

「我 宝樹をー献けんる。

せーそん

世尊のー納受のうじゆー

受け取つて下さつた

こ

じー

と

是の事 疾しやー不いなや」

こた

答えーてー言いわく、

瞬時だったか、そうでないか

はなはー

とー

によ

い

「甚だー疾し」

なんじー

汝がー

すぐにお受け取りになられました

じんりき

もつ

わー

じようぶつ

みー

神力をー以てー我がー成仏をー觀みよ。

神通力

私が仏に成る様子

またー
復こ此れよりもー速すみやかなーらん」

もっと速いですから

とうじー
当時のー衆会、皆みーなりゆうによー龍女のー忽然のーこつねん

集まっていた一同

あつという間

あいだー
間へんにー変じーてー男子とーなつて、なんしー

男性の姿

ばさつー
菩薩のー行をー具ぐして、ぎよう即ちーすなわー

果たすべき修行を成し遂げて

なんぼう
南方無垢世界にー往ゆいてー宝蓮華にーほうれんげー

汚れなき

美しい蓮華

ざ
坐して―等正覺を―成じ、
三十二相
・
きんじゆうに―そう

最高の悟り

はちじゅつしゅーごう

八十種好あつて、
普く―十方の―

八十の福相

いっさいしゅーじよう

一切衆生の―為に―
妙法を―

ため

みようほう

生きとし生けるもの

眞実の法

えんぜつ

演説するを―見る。
みー

説いている様子

そ

とき

しゃばせーかい

ぼさつー

しょうもん

てん

爾の時に―娑婆世界の―菩薩・声聞・天・

龍・八部・人と非人と皆遙かに

人間以外のもの

遙か彼方の世界で

彼の龍女の成仏して、普く

時の会の人天の為に法を説くを

その世界の

人間や天人

見て、心に大に歡喜して悉く

遙かに敬礼す。

無量の衆生

遙かな世界へ向けて礼拝しました

数限りない

ほう 法をー 聞いてー げご 解悟し、 ふーたいてん 不退転をー えー 得、

竜女の説く法華經の教え

よく理解し

後退しない境地に到達し

むーりよう

しゅーじよう

どう

きー

う

無量のー 衆生、 道のー 記をー 受くるー

いつか必ず仏に成れるという保証

え

むくせーかい

ろっぺん

しんどう

ことをー 得たり。 無垢世界 六反にー 震動

六回、感動に震える

しやばせーかい

さんぜん

しゅじよう

す。 娑婆世界のー 三千のー 衆生

ふーたい

ちー

じゅう

さんぜん

しゅーじよう

不退のー 地にー 住し、 三千の 衆生

絶対に後退しない境地

菩提心をおこ発して授記じゆきを得えたり。

悟りを求める心

必ず仏に成れるという保証

智積菩薩 及びおよ舍利弗、
一切のいっさい衆会しゆえ

集まっていた一同

默然ともくねんして信受しんじゆす。

日蓮聖人御妙判にちれんしょうにんごみようはん 孟蘭盆御書にうらぼんごしよ曰いわく

もくれんそんじゃ ほけきよう しん

「目蓮尊者が法華經を信じまいらせし

だいぜん わ みほとけ

大善は、我が身仏になるのみならず、

ふぼほとけ

たも

かみしちだいしもしちだい

父母仏になり給う、上七代下七代、

かみむりようしようしもむりようしよう

ふぼたち

ぞんがい

上無量生下無量生の父母等、存外に

ほとけ

たも

ないし

しそく

ふさい

仏となり給う。乃至子息夫妻、

しよじゅうだんな

むりよう

しゅじよう

さんなくどう

所従檀那、無量の衆生、三悪道を

みな

しよじゅうみようがく

はなるるのみならず、皆、初住妙覚

ほとけ

の仏となりぬ。」と云々

願わくはこの功德をもって、
あまねく一切に及ぼし、
我々と衆生と皆共に、
仏道を成ぜん。

